

大村家と会津松平家の結婚をめぐる

本会幹事 草場 里見

江戸時代に大村家と会津松平家は、一時期、姻戚関係にあったが、戊辰戦争では新政府軍と旧幕府軍に分かれて戦った。しかし、昭和に入り、再び両家は姻戚関係で結ばれた。

1、大村純鎮と松平留の結婚

第9代会津藩主大村純鎮(すみやす。以下、「純鎮」と記述)は、宝暦9年(1759)8月20日に生まれ、宝暦11年(1761)2月に2歳で家督を継いだ。寛政2年(1790)に藩校の静寿園を五教館と改め、藩士だけでなく、百姓・町人の入校も認めた。文化11年(1814)7月16日に大村で死去。享年55歳。

松平留(以下、「留」と記述)は、宝暦9年12月11日に生まれた。徳川秀忠の玄孫(やしやご)で、松平容章(かたあき)と側室嘉代の次女である。留はいとこの第5代会津藩主松平容頌(かたのぶ)の養女となり、純鎮に嫁いだ。文政9年(1826)に死去。享年67歳。家系は次のとおりである。なお、保科正之は、徳川秀忠の四男(庶子)で会津松平家の初代藩主である。

徳川家康—徳川秀忠—保科正之—松平正容
—松平容章—松平留

純鎮と留の結婚は、共に満17歳の時で、安永5年(1776)12月7日に結納式が行われ、結婚式は、安永6年(1777)正月9日に行われたが、寛政9年(1797)11月29日に2人は離縁しており、婚姻関係は約21年続いた。2人の間には娘が2人生まれたが、残念なことに2人とも夭折した。ところで、大村藩の藩政記録『九葉実録』に純鎮と留の結婚や離縁のことが記載されている。

これによると、安永5年(1776)9月13日、純鎮は、会津藩主松平容頌の養女、すなわち容頌の叔父松平容章の娘留と結婚するため、旗本の長谷川太郎兵衛を介して請表を幕府に提出した。純鎮は同年11月6日江戸に到着し、同月15日に登城して幕府に贈物をした。そして同月26日、閣老らが純鎮を召して婚姻を承認することを伝えている。

安永6年(1777)正月9日、純鎮は、結婚式を行った。同月15日、登城して紗綾(さや。絹織物の一種)2巻を第10代将軍徳川家治に、銀2枚を世子に献じて御礼を述べた。

しかし、寛政9年11月29日に、純鎮は留を離縁し、幕府に届けている。これは、『九葉実録』には、同年3月に側室八重女が産んだ子を「世子」、八重を「殿」とそれぞれ呼ばせることにしたとあり、筆者は子のいない留姫は正室として居づらくなったのが離縁の原因ではないかと思っている。

2、大村純毅と松平芳子の結婚

大村純毅(すみたけ。以下、「純毅」と記述)は、昭和8年(1933)5月に大村家の家督を相続し、大村家第33代当主となる。翌6月に伯爵の爵位を継ぐ。陸軍砲兵中尉だった昭和2年(1927)に旧会津藩主松平家の長女芳子と結婚。昭和27年(1952)に49歳で大村市長となり、昭和43年(1968)まで4期16年務めた。学習院及び陸軍士官学校卒。

松平芳子(以下、「芳子」と記述)は、旧会津藩主松平容保の七男で子爵の松平保男(もりお。会津松平家第12代当主)の3男6女の第一子として生まれる。女子学習院高等科を結婚のため1年で中退している。

結婚式は、昭和2年12月19日、東京品川区上大崎5丁目639番地の大村家自宅で行われた。芳子は、江戸時代の武家の衣装を着て式に臨んだ。披露宴は、昭和2年12月26日(東京会館)と、翌12月27日(上野精養軒)の2回行われた。

媒酌人は、大村家が旧大村藩士の長男福田雅太郎陸軍大将で、松平家が旧会津藩士の五男柴五郎陸軍大将(砲兵科で大村純毅の先輩)だった。福田大将が媒酌人を代表して挨拶を行った。上野精養軒では、特に旧大村藩の人々のために催された。

3、大村夫妻の会津訪問

芳子の弟の松平保興が記述した「大村と会津」という手記によると、昭和46年5月、純毅・芳子夫妻は会津を訪問し、純毅は地元の人々と酒を酌み交わして交流した。また、その翌日、戊辰戦争時の西軍戦死者151名の墓地のある融通寺を訪問した。純毅が大村市長時代に贈った大村桜が大村藩士の墓の集まっている場所に植えられていて、純毅は旧藩主家として大村藩士の墓を一つ一つ丁寧に参拝した。

以上のように大村家と松平家の関係は、離縁に終わったり、戊辰戦争では敵対関係になったりしたが、純毅と芳子の結婚によって両家は、再び深い絆で結ばれたのである。

本稿は令和6年4月例会の発表の要旨である。



会津若松城



大村藩主大村家墓所

参考文献

大村史談会編 『九葉実録』第2冊 大村史談会
1995年

福田清人・松井保男編 『大村純毅傳』大村純毅伝刊
行会 1976年